

## 和歌山県立自然博物館

### 「泳ぐカメ」-ウミガメのふるさと和歌山

開催期間：平成28年7月16日（土）～平成28年8月31日（水）

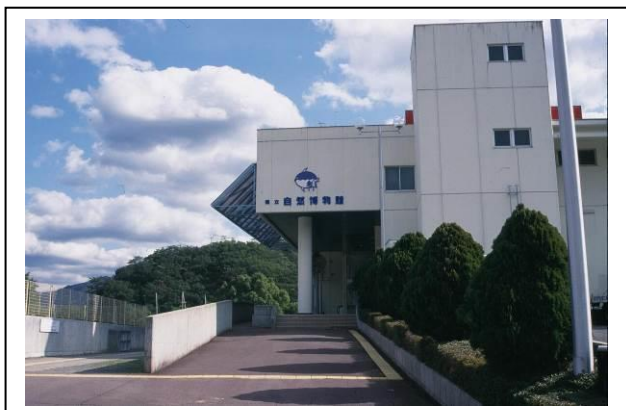


#### 【企画展の内容・目的】

- 和歌山県の近海に生息するウミガメ類を通じて、海が様々な生物にとって大切な生息環境であることを学ぶ機会とした。
- 化石種から現生種までのカメ類に対する知見を得ることで、様々な時代の海の環境やその生態系を学び、現代における海の環境保全に対する意識を喚起した。
- カメ類の脚の進化による構造の変化を通じて、海での環境が生物進化に与える影響について学ぶ機会とした。
- 展示以外の付帯事業の開催により、身近でありながら体験的に学ぶ機会の少ない郷土の海について、専門家の解説を交えながら理解を深める場を提供した。

# 1. 企画展示の内容

- 開催期間：平成28年7月16日（土）～平成28年8月31日（水）
- 開催場所：和歌山県立自然博物館 レクチャールーム
- 入場者数：34,082人



和歌山県立自然博物館 外観



企画展会場 入口



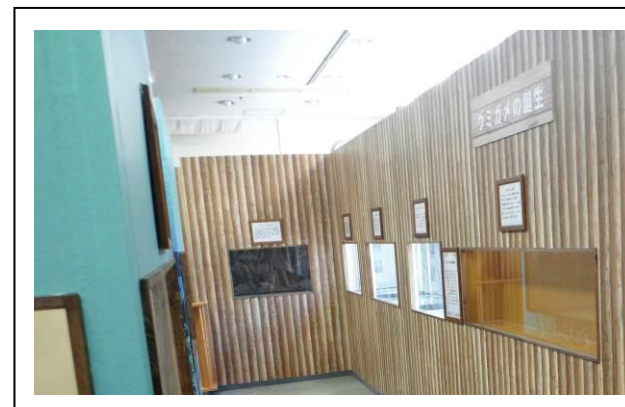
淡水に棲むカメと進化のパネル



海に棲むカメを夜の水族館で見学



展示中のアカウミガメ



ウミガメの誕生と水辺に棲むカメ



生まれたアオウミガメの展示個体



展示中のスッポン



展示中のマレーハコガメ



陸に棲むカメ



ゾウガメ解説



展示中のゾウガメ

展示会場内は木目調にし、ウミガメの棲む故郷としての自然豊かな「木の国わかやま」「水の国わかやま」の対比を狙った。始めに淡水棲のカメ類を展示するとともに特徴的な進化の指標である脚の話を行うことによって分かりやすくカメの進化を理解してもらうことを狙った。さらに、脚の進化が現れるウミガメ、ヌマガメ、リクガメを配置することによって、パネル上に表した進化がどのように進んだかを簡潔に理解することに取り組んだ。さらに一番大きくウミガメの飼育スペースを取るとともに和歌山県における分布を実際に生息する3種（アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ）とともに保護の現状をパネルにて紹介した。最後に陸上生活に特化したゾウガメを配置することによって、進化のテーマを実感することはもちろん、子供たちにも飽きさせないテーマとすることを心掛けた。

## 【来館者の声】

- 海は人間にとっても一番大切な水。泳ぐことも楽しいし、海はいつでもきれいでほしい。
- 同じ海にいろんな生きもの、種類があって面白い。
- いつまでも生き物が棲めるきれいな海を守らなくてはと思いました。
- いろんなカメがいて楽しかった。
- 大切にしていかないといけない。癒されました。

## 2. 関連事業の内容

### ■ウミガメの産卵見れるかな

【開催日時】平成28年7月1日（金）21：00～24：00

【開催場所】みなべ町千里の浜海岸

【参加者数】21人

【実施内容・目的】

- 展示でも紹介しているみなべ町千里の浜に上陸し産卵するアカウミガメの様子と上陸地の砂浜を守る運動について、現地調査員の案内と解説を交えながら理解を深める機会とした。
- 上陸の様子を実際に見学することによって生物における海浜の重要性を再認識する場とした。また海浜環境の変化によってアカウミガメの上陸および産卵にどのような影響が出ているかを調査員の解説を交えて学ぶことによって環境保護への意識喚起に繋げた。



参加前の解説のようす



アカウミガメ上陸の様子



アカウミガメ産卵の様子



指示に従い携帯で写真を撮る参加者

深夜に及ぶアカウミガメの産卵の様子を観察することによって、彼らがどうやって生き延びてきたかを肌で感じる事ができた。また、近隣の浜と異なる全く照明のない砂浜に上陸するアカウミガメを通して動物にとっての生息環境とはどういうものかを知ることができるとともに、解説員のお話から今後どうやって守っていくかについても高いレベルで理解できたと考える。

## 【来館者の声】

- 卵を産む場所を守るのがこんなに大変だなんて知らなかった。
- 和歌山にこんな海があるなんて知らなかった。
- 砂浜をきれいにする地道な活動を間近に知り、大変為になった。

## ■ウミガメに触ってみよう

【開催日時】平成28年7月16日（土）～平成28年8月31日（水）

【開催場所】和歌山県立自然博物館 バックヤード他

【参加者数】延べ100人

【実施内容・目的】

- 不定期に自然博物館1Fバックヤードや2F大水槽横で学芸員の解説付きで行い、特に特別展のテーマである足の形状に着目して触れてもらう。
- 実際にウミガメに触れることで、映像では伝えきれない命と触れ合うことにより、命が生まれるために必要な自然環境が生物に与える影響について再認識する機会とした。



開催場所例（1Fバックヤード）



開催場所例（2F大水槽上）



おっかなびっくり触る



甲羅の硬いことを直に体験する。

海の生き物が海洋に適応した体に進化し、適応していることを実際にウミガメに触れ、観察することで学ぶことが期待された。また、ウミガメを通じて多種多様な生物が生息する海という環境に興味を持つことがおおいに期待された。

### 【来館者の声】

- ウミガメの甲羅がすごく硬かった。
- 太平洋を一周するなんてすごいと思った。
- またもとの海に帰ってくるのは本当にすごいと思った。

## 【事業全体のまとめ】

- ・海の生き物が海洋に適応した体に進化し、適応していることを実際にウミガメに触れ、観察することで学んでもらうことができたため、海やそこにすむ生きものへの興味関心を高めることができた。
- ・アカウミガメだけでなく海洋や海岸線に生息する生物にとって、砂浜への車の乗り入れや夜間の人工灯の投射が生物にとって影響を与えていることを理解し、自然環境の変化が及ぼす影響の大きさを再認識するとともに、その環境を守る意識を喚起し、また実践できることを実感させることに成功した。このことから海浜利用の適正化が環境保護に大変重要であることについてウミガメから学んでもらうことができた。
- ・世界中のウミガメ類の分布とウミガメ類の特性である回遊生態を学ぶことによって、海流が生物に与える影響とそこに運ばれるゴミ類が多く動物に影響を与えることを学ぶことができたため、海洋汚染がウミガメ類をはじめとする海洋生物に与えている影響が局所的な物でなく、地球規模で起こることを実感できたと考える。

## 3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. すさみ町立エビとカニの水族館	飼育協力及び生体、広報資料貸与
2. 名古屋港水族館	飼育協力及び生体、広報資料貸与
3. 串本海中公園	飼育協力及び生体貸与
4. 志摩マリランド	飼育協力及び生体貸与
5. みなべ町教育委員会	広報資料貸与

## 4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. リビング和歌山	平成 28 年度特別展「泳ぐカメ」 2016 年 7 月 9 日
2. ニュース和歌山	ウミガメのふるさと和歌山 2016 年 7 月 9 日
3. 紀伊民報	「泳ぐカメ展」 2016 年 7 月 16 日
4. 紀伊民報	世界の「泳ぐカメ」紹介 2016 年 8 月 6 日
5. 朝日新聞	カメさん 14 種類見られるよ 2016 年 8 月 28 日

以上